

1 題材名 音の重なりを感じ取ろう

2 題材の目標 旋律や音が重なり合う響きを取り、面白さを味わったり、それらを生かした表現の工夫をしたりする。

3 題材について

(1) 題材観

本題材は、学習指導要領解説音楽編（平成20年8月 文部科学省）のA表現（1）エの「互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて、声を合わせて歌うこと」、B鑑賞（1）イの「音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造に気を付けて聴くこと」を主な指導事項としている。旋律の重なりなど音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら聴いたり、演奏したりすることをねらいとしている。鑑賞領域では、旋律の重なりによっても曲想が特徴付けられることに気付き、その面白さやよさを味わう。表現領域では、鑑賞教材で学んだことを生かして、豊かな表現の工夫をすることにつなげていく。表現の能力と鑑賞の能力を相互に高め合い、児童一人一人の音楽性や音楽に対する感性を豊かにしていくことができる題材である。

(2) 児童の実態

- ・音楽の授業の中で、好きな活動はなんですか。（複数回答）
 

音楽を聴く（30人）	楽器を演奏する（29人）
歌を歌う（27人）	リズムやメロディをつくる（15人）
- ・音楽の時間に、いろいろな曲を聴くことは好きですか。
 

とても好き（26人）	どちらかと言えば好き（8人）
あまり好きではない（4人）	きらい（1人）
- ・音楽を聴く時に、どんな点に気を付けて聴いていますか。
 

強弱（27人）	速度（25人）	楽器の音色（23人）	曲想（15人）
リズム（5人）	クライマックス（3人）	イメージを想像（3人）	
楽曲の構成（2人）			

音楽を聴くことが好きな児童が多く、その理由として「色々な曲を知ることができる。」「楽しい気持ちになる。」などを挙げている。反面、好きではない児童は「感想が書けない。」「退屈だから。」などの理由を挙げている。意識調査（アンケート）の結果では、強弱や速度、楽器などに気を付けて聴いている児童も見られるが、聴き取ったことや感じ取ったことを、音楽を形づくっている要素と結び付けて感想を発表したり、書き表したりすることになかなか結び付いていない。1学期に学習したパートナーソングの「子どもの世界」では、2つの旋律の重なりを理解して歌うことができたが、相手の旋律につられないようにという思いから大声を出してしまい、互いの声を聴き合いながら、重なり合いの生み出す面白さを味わうまでには至っていない。

(3) 指導観

鑑賞教材の「ファランドール」では、「王の行進」「馬のダンス」の2つの旋律の特徴をしっかりと捉えた上で、旋律の重なりや掛け合い、変化していく様子を聴き取り、音楽全体の流れや面白さを感じ取らせていく。

2つの旋律の特徴を捉えるためには、それぞれの旋律の題名を考える活動や、旋律を歌ったり体を動かしたりする活動を取り入れていくことが、効果的であると考えている。リズムや速さ、強弱などに気を付けて聴くことで曲の特徴を捉えさせ、後半の活動に自信を持って取り組むができるようにしたい。また、言葉のカードの提示やグループでの活動により、語彙の少ない児童も安心して活動できるようにしたい。

音楽の構造を捉えるためには、2つの旋律を表す色分けしたカードを用いたり、構造図や電子黒板の楽譜を提示したりして、重なりや掛け合いなど音楽の仕組みが視覚的に捉えられるように

する。更にグループで話し合う活動を取り入れ、強弱や速度の変化による曲想とその変化を感じ取って聴き、楽曲の特徴や演奏のよさに気付けるようにする。

歌唱教材の「パレードホッホー」では、2つの旋律それぞれの特徴を生かした歌い方を話し合なながら、旋律の重なりを楽しんで歌えるようにする。また、器楽教材の「茶色の小びん」では、「ファランドール」や「パレードホッホー」の学習を生かすことで、各パートに合う楽器を選び、豊かな響きになるように楽器の演奏の仕方を工夫したり、各パートの音量のバランスや曲想の工夫について確かめながら表現の工夫をしたりできるようにする。

#### 4 題材の評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能	エ 鑑賞の能力
①友達の歌声や楽器の音、副次的な旋律を聴きながら、自分の声や音を合わせて演奏する学習に進んで取り組もうとしている。 ②旋律の重なりや反復、変化の関わり合いによってつくられる楽曲の構造に気を付けて聴く学習に進んで取り組もうとしている。	①声や音、旋律の重なりなど音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取っている。 ②互いの声や音を合わせて歌ったり演奏したりする表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。	①友達の歌声や副次的な旋律を聴きながら、自分の声を合わせて合唱している。 ②友達の楽器の音や副次的な旋律を聴きながら、自分の音を合わせて合奏している。	①旋律の重なりや反復、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取っている。 ②旋律の重なりや反復、変化の関わり合いによってつくられる楽曲の構造に気を付けて聴いている。

#### 5 学習活動と評価の計画（7時間扱い）

次	時	ねらい	主な学習活動	〔共通事項〕	評価規準
第1次 (4)	1 2	互いの声を聴きながら、旋律が重なり合う面白さを感じ取って歌う。	【歌】「パレードホッホー」 ○前半と後半の旋律のそれぞれの特徴を捉え、2つの旋律の重なり合いを楽しみながら歌う。	旋律 音の重なり	ア-① ウ-①
	3	2つの旋律の特徴を聴き取る。	【歌】「ファランドール」 ○旋律を口ずさんだり、リズムを取つたりしながら2つの旋律を聴き、それぞれの特徴を捉える。	旋律 音の重なり 強弱 反復	ア-② エ-①
本時は 第4時	4	楽曲の構造、楽曲の特徴や演奏のよさや面白さに気付き、味わって聴く。	○後半部分を聴き、2つの旋律の重なりや掛け合いの面白さを感じ取る。		エ-②
第2次 (3)	5 6 7	主旋律の特徴を感じ取つて演奏する。  旋律の重なりの面白さを感じ取りながら、表現の仕方を工夫し、どのように演奏するかについて自分の考	【歌】「茶色の小びん」 ○各パートの重なりを聴き取ながら曲全体の感じをつかみ、主旋律を演奏する。  ○各パートの役割を考え、旋律に合う楽器を選んで演奏する。  ○強弱やバランスに気をつけて演奏し	旋律 音の重なり 強弱 音色	ア-①  イ-①  イ-②

	えをもつ。	たりするなど、表現の工夫について話し合いながら演奏する。	ウー②
--	-------	------------------------------	-----

## 6 本時の学習

### (1) ねらい

「ファランドール」の後半部分の2つの旋律の変化を聴き取ったり、その働きを感じ取ったりする活動を通して、楽曲の構造、楽曲のよさや面白さを味わって聴く。

### (2) 準備・資料

掲示用構造図、グループ用構造図、電子黒板、言葉のカード、2つの旋律を表すカード、付箋、ワークシート、CD

### (3) 学習の展開

学習内容と主な学習活動	教師の働きかけ (◆評価規準)	
	T 1	T 2
1 「パレードホッホー」を歌う。	○2つの旋律の重なりを感じながら拍の流れに乗って歌えるようにする。 ○旋律の特徴や構造図の見方を振り返り、本時の学習がスムーズに行えるようする。 ○初発の感想を紹介し、本時の学習への意欲を高める。	○児童と一緒に歌い、雰囲気や意欲を高める。 ○集中して話を聞けない児童には、一緒に口ずさんだり、絵譜を指したりしながら支援し、集中できるようする。
2 本時の課題を知る (1) 前時の学習の振り返り、2つの旋律の特徴を確認する。 「王の行進」「馬のダンス」 (2) 本時の課題を知る。  ファランドールのおもしろさを見つけよう。		
3 後半部分を聴き、曲の構造を知る。 (1) 旋律に合わせてカードをあげながら聴き、仕組みを調べる。 ・グループ毎に構造図に表す。 「王の行進」－ピンク色 「馬のダンス」－水色 ・掛け合いや重なっているところがあった。 (2) 2つの旋律が前半と比べてどのように変わったか聴き取る。 ・速さ、強弱、音色、調など	○2色のカードをあげることにより、2つの旋律の重なりや掛け合いなどの仕組みに視覚的に気付くことができるようする。 ○構造図や電子黒板で仕組みを視覚的に確認しながら聴き、旋律の重なりや掛け合いについて共通理解を図る。 ○聴く観点を明確にし、グループで話し合わせる。	○つまずいている児童には一緒に口ずさんだりしながら支援し、旋律を聴き取ることができるようする。 ○つまずいているグループには、あげたカードを基に、構造図に2色のカードを貼るよう支援する。 ○聴き取ったことがうまく表現できない児童には、言葉のカードを手がかりにして支援する。
4 話し合ったことを発表し合う。 ・「王の行進」は最初より速くなって楽しい感じ。 ・音が大きくなり迫力がある。 ・たくさんの楽器の音色が聞こえた。 ・「王の行進」は明るい感じに変わった。	○体を動かしたり、口ずさんだりしながら聴くことで、変化に気付くことができるようする。 ○1つのグループから出た内容について他のグループにも投げかけたり、聴いて確認したりしながら曲の理解につなげていく。	○児童から出された内容を板書用の構造図にまとめしていく。
5 全体を通して聴き、ファランド	◆旋律の重なりや反復、変化の関わり合いによってつくられ	

ールの面白さについてまとめる。	る楽曲の構造に気を付けて聴いている。 (エー②)
6 次時の学習について知る。	○話し合った内容や、全体の流れを感じ取りながら聴くことを確認する。

## 7 観点別評価の生かし方

〔鑑賞の能力〕	
評価規準	評価方法・Cと判断される状況への働きかけ・Aと判断するキーワード
エー② 旋律の重なりや反復、変化の関わり合いによってつくられる楽曲の構造に気を付けて聴いている。	<p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>構造図の記載内容及び活動中の様子や会話の観察、ワークシートの内容から見取る。</li> </ul> <p><b>【Cと判断される状況への働きかけ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>口ずさみながら絵譜と一緒に指でなぞったり、構造図を確かめたりすることで、旋律の重なりや掛け合いに気付けるようにする。</li> <li>言葉のカードを手がかりに感じ取ったことを表現できるようにする。</li> </ul> <p><b>【Aと判断するキーワード】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「旋律の重なり」「掛け合い」「強弱」「速さ」「移調」など特徴を捉えた楽曲の面白さやよさの気付き</li> <li>グループ活動での積極的な発言や取り組み</li> </ul>